

期間 2014年9月12日（金）～9月15日（水）

11日夜、RQ 広島ボランティアセンターであるろうきん森のがっこうに到着。3日から12日まで働いてくれた学習院大学の飯沼先生と業務の引き継ぎを行う。

今回の目的はボランティア数、及び他地域から派遣されているスタッフが減少する中で迎える9月13、14、15日の3連休を可部東サテライトを飯沼先生より引き継いで乗りきる事。8月28日に活動を開始したRQ 広島サテライトの運営を9月15日の最終日で閉めることであった。

最終日までさわやかな秋晴れが続き、地域の道ばたでは曼珠沙華の花が一気に咲き始めていた。9月初めと比べて屋外での活動も随分と楽になってきた。

## 1 作業の概要

避難指示が早くから解除されていた5丁目の作業は減少し、地域からの作業ニーズの中心は6丁目の被災が重篤である山際、及び沢筋が中心となっていた。

6丁目を上下する道は従来3本あって、当初は中道のみが通行可能であり左右（正確には南側と北側の道は寸断されていたが、12日には3本共に通行可能になっている。

作業内容は A:重機が入った後に新たに発生する土砂の掻き出し、B:個人宅の土砂掻き出し後の仕上げ作業(床下も含む)、

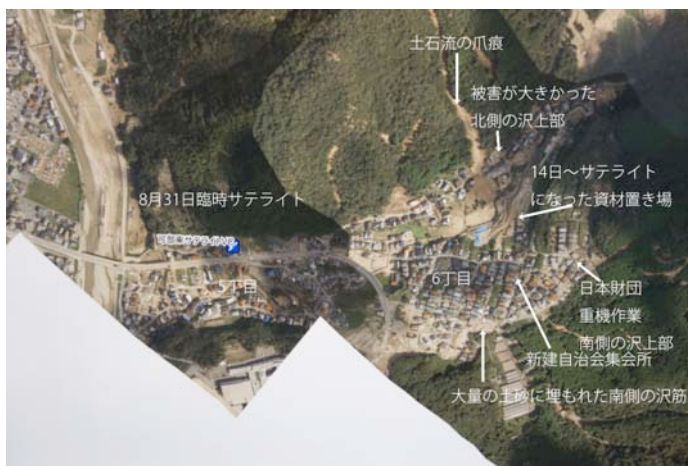


図1. 可部東5、6丁目航空写真（原図は広島市社協）



図2. 重機を扱う黒澤さん

C: 地域の公共空間（コミュニティ道路、児童公園等）の土砂の掻き出し、土嚢撤去 とニーズが変化していた。

A は日本財団黒澤さんの重機ボランティア部隊との連携が主。黒澤さんが当初より関わって来た南側の沢上部及び、今回自家用車3台を重機で引き出すことによって土砂撤去作業可能になった北側の沢上部の個人宅での作業が中心となった。また重機で山側の道路が回復することによって可能になった2棟建てマンション敷地内に流れ込んだ土砂の撤去も始まった。

B はボランティアによる人海労働と重機での大まかな1次作業が終わったあとの、個人宅の壁面洗浄や当初は手が及ばなかった床下作業が5丁目も含めて各所で残っていた。

C については雨水の流路を誘導するために積み上げられた土嚢、1次作業で山ざわ積み上げられた土嚢の撤去。5丁目の児童公園に流れ込んだ土砂撤去、コミュニティ道路の側溝の土砂撤去であり、これらは多数のボランティアがいずれも活躍した。



図3. 可部東資材置き場/15日よりサテライトに

## 2 サテライトの運営

可部東サテライトの運営のリーダーはRQ 広島に熊本の肉牛生産農家（約300頭の肥育）から駆けつけた藤井さん。機材、物資を担当する広島社協の職員、補佐する広大ボランティアサークルと我々RQのメンバーが中心となって運営した。しかしミッションである15日のRQ撤退を円滑にすすめるために、実動部隊の広大生とリーダーとなる広島社協の正木さんに段階的に仕事を移管し、15日にはほぼ仕事を引き継ぐ事ができた。

13日は5丁目に31日に設営した可部東サテライトで直接扱ったコーディネートが2件と極端に少なくなり、5丁目サテライトを6丁目の資材置き場に移管して閉じる方針を打ち出し、14日に本部検討案件にあげ、15日には閉鎖した（資材置き場、休憩所として継続）。この件に積極的に関与したのが13日に現地に来た支援Pの李さん。状況を汲み取って1日で対処してくれた。

図4は、どのようにサテライトスタッフが引き継がれて行ったかを示している。16日の連休明けが広大生3名と社協1名となり、厳しい状況となったが、広大生3名共に3日間で仕事を十分に理解していた。



図5. サテライトで報告を受ける藤川さん

	12日	13日	14日	15日
	金	土	日	月祝
RQ	●			
RQ	●			
RQ	●			
RQ	●			
広大	●			
広大	●			
広大	○	○	○	
広大	○	○	○	○
社協	○	○	●	
RQ	○	○		●
RQ	○	○	○	●
RQ	○	○	○	●
広大		●		
広大		○	○	○
広大		○	○	○
社協		○	○	●
RQ		○	○	●
他大			○	●
他大			○	●
社協			○	○
RQ			○	●
支援P			●	
広大			●	
広大				●
総数	12	11	16	13
RQ	7	4	4	5
広大	4	5	6	4
社協	1	3	3	2
他大			2	2
支援P			1	

○:継続  
●:最終日

図4. サテライトスタッフの引き継ぎ状況

### 3 災害支援活動家の活躍

支援P<sup>1</sup>の李 仁鉄さん(にいがた災害ボランティアネットワーク)をはじめ、今回の災害では職業として災害支援活動を行なう人々に出会うことが出来た。

その一人がこの4日間、ニーズの掘り起こしからコーディネートまで活躍した通称トムさん(本名:前原土武、災害NGO 結<sup>2</sup> 代表)である。出身は沖縄県。ラフティングのガイドとして北海道手稲に始まり、オーストラリア、ニュージーランドから世界の河川に転戦。ヨルダンで日本人の集団と久々に出会い、日本に帰ることにしたと語る。彼は2011年3月東日本大震災への支援を皮切りに同年の新潟・福島豪雨、台風12号大水害那智勝浦、2012年はつくば竜巻災害、九州北部豪雨 2013年は山口・島根豪雨、島根西部豪雨、台風18号(高島市)、伊豆大島大水害、2014年に入って山形県豪雨、台風11号(那賀町)そして8月の広島と日本の大きな災害現場の支援活動を続けて、災害支援活動家 災害復旧・復興支援コーディネーターとして新たな職種を切開いてきた。

トムさんのスタンスは、李さんが支援Pのスタッフの一員として、我々と同様に本部の運営スタッフとして組織的活動を援助するのに対して、組織には属さずあくまでも個人で働く。故にビブス(bibs ゼッケン)は一切着用しない。

250cc のオフロードバイクで走り回り災害地全体を見渡しながら、これまでの災害経験知からアドバイスを的確に繰り出して行く。9月当初は他地域に関わっていたが、最終的にこの北VCでは可部東サテライトが残って来たので、集中的に5、6丁目において活動した。

書類上で本部から上がって来るニーズに応えるという、組織的な動きと彼が駆け回って遊軍的に掘り起こして来るニーズに応じて、サテライトの対処能力の最大値を引き出して行く事が我々サテライトを預かるコーディネーターには求められた。

また重機を持って同じ6丁目で独自の視点で活躍する日本財団の技術系災害ボランティアネットワーク(DRT-JAPAN)を率いる黒澤司さんがいる。彼は日本財団のスタッフとして、これまで全国の被災地において災害支援を続けて来た活動家の一人である。

DRT-JAPANの重機によって、一般のボランティアの方々が活動する場が次々にひらかれてきた。3月に開催したRQの災害教育のフォーラム時に黒澤さんの話では聞いていたが、今回、短い期間ではあったが一緒に活動することが出来て、その真価を体験することが出来た。



図6. 応援に駆けつけた李さん



図7. 現場で説明するトムさん



図8. 黒澤さん

<sup>1</sup> 災害ボランティア活動支援プロジェクト会議の略。企業、NPO、社会福祉協議会、共同募金会等により構成されるネットワーク組織。2004年の新潟中越地震の後、2005年1月より中央共同募金会に設置。<http://www.shien-p-saigai.org> (2014年9月18日閲覧)

<sup>2</sup> 前原土武の災害支援ブログ <http://saigainoyui.hatenablog.com/entry/2014/09/15/235900> (2014年9月18日閲覧)

#### 4 コーディネート

仕事は、地元新建自治会のニーズ、トムさんが探し出す現場、黒澤さんの重機の動き、他団体（日本国際飢餓対策機構<sup>3</sup>）を、常に歩いて自分の目で観て理解し、ボランティアとのマッチングを現地で行なっている広大生とRQのスタッフに情報を伝え、活動全体の進捗を把握しながら全体の潤滑油に徹する事。現場で着々と変わる状況に応えながら様々な主体が地域を再生するプロセスはシステムの合理性を超えた複雑性の場である。

##### 1日の動き（※印：コーディネーターとしての仕事）

7時00分：※安佐北ボランティアセンターにてニーズ班との打ち合わせ、前日の新建自治会で作された現場ニーズを、ニーズ票に記載。本部にあがっているニーズ票の確認を行い、その日の仕事について確認し合う。トラック運転手、特別な資材が必要な場合はマッチングと資材に連絡

7時30分：※可部東サテライトチーム打ち合わせ、チームリーダーを中心に本日のスタッフ顔合わせ、スタッフ連絡先一覧と、可部東の住宅地図配布。ニーズの大まかな打ち合わせ。

8時00分：センター全体による朝ミーティング参加  
資材担当は資材を搬送

8時40分（頃）：現地サテライト集合 スタッフは テント張り、備品整理など  
※自治会長、自治会役員との朝の口頭打ち合わせ  
リーダーとスタッフで、本部マッチング班からの連絡を受けて、現地でのマッチングを行なって、ボランティアの受け入れ体制を整えて行く。

9時30分（頃）：順次 ボランティア受け入れ、オリエンテーション、  
現地誘導

10時00分：作業開始 ※各現場の見回り、状況の確認 必要な資材の  
連絡など。

11時00分（頃）※作業の進捗を見て、午後のマッチングについてリ  
ーダーと相談

12時00分：昼食 ※作業現場の昼食状況の確認、スタッフと水やおしぼりの配布

13時00分：午後の作業開始

※各現場の見回り明日のニーズを拾い出す。継続内容の確認、日本財団への聞き取りを行い、明日の作業についての情報をまとめておく。（次の自治会連絡会にて提案、報告）

15時30分：※新建自治会にて連絡会。今田自治会長、役員（藤井さん、進藤さん）、サテライトからはリーダーと私（引き継ぐために広大生、社協職員も参加）、日本国際飢餓対策機構から広島福音自由協会の北野献慈さん、トムさん。本日の作業と明日の作業分担について打ち合わせ。

17時30分：本部ミーティング。リーダーは本日の活動報告と明日の予定件数、必要人数の予測をニーズと打ち合わせて会議にて報告。

※ミーティング終了後、リーダー、トムさんとの最終打ち合わせ/確認

19時30分（頃）解散



図9. 新建自治会打ち合わせ



図10. 本部ミーティング

<sup>3</sup> 日本国際飢餓対策機構 JIFH <http://www.jifh.org/news/2014/09/post-297.html>

## 活動期間中のトピックス

9月12日（金） ボランティア 331名

- ・ 土砂に完全に埋まっていて掘出された、第四児童公園のトイレの掃除が完了
- ・ 第四公園下方にあるOさん宅の法面補強のための土嚢積みが始まる。黒澤さん指導。（黒澤さんのブログ<sup>4</sup>に記録あり）  
土嚢は6丁目内に現在積まれている土嚢を使用。
- ・ 5時過ぎてから、黒澤さん等による重機でのOさん宅に突っ込んだ車の引き出し作業をするため、RQは手仕事で車の車内の泥だし作業を行なった
- ・ 個人宅の土砂出し最終段階の仕上げ等
- ・ 2棟建てのコフレドールに資材置き場側から入れる様になったので、管理会社と連絡して13日（土）からボランティアを入れて、敷地内の土砂出し（土嚢詰め）作業開始を打ち合わせる。（飯沼）
- ・ 重機で黒澤さんを中心に運び出された石、土砂、木の移動を急ぐニーズ発生  
（周辺住民から騒音、埃など苦情が出始めているとのこと）
- ・ 日本国際飢餓対策機構は今後、花壇プロジェクトを開始する予定
- ・ 毎日ボランティアが来ると医者に行けない（全体M、支援チームより現状報告）
- ・ サンマ500匹、米30kg、水4tが本部に届いている
- ・ 団体受け入れの制限案 土日の団体は受けない、平日50〜100+αで調整  
もみもみサロン開設などちょっと幅を広げて受け入れる事の必要性（トム）

9月13日（土）三連休1日目 ボランティア 332人

- ・ Oさん宅法面の土嚢積みは順調、土嚢の結び方の指導徹底が必要
- ・ 黒澤さんが重機で車を引き出したあとの土砂出し作業
- ・ 全壊となったMさん宅M重機作業後の土砂から家財を選り出す手作業
- ・ Sさん宅で商工会ボランティアが活躍した
- ・ コフレドール作業進むが14、15日は連休で立ち会い職員が出せないため16日再開
- ・ 昼に自治会館で可部商工会による、カレーの炊出しがあった。
- ・ パタゴニア（篠さん）、日能研（高木さん、岡さん）ボランティア、視察15日まで



図 11. 重機で引き出すための土砂出し



図 12. 森の中に積まれた土嚢の搬出



図 13. 重機で車移動後の土砂出し

<sup>4</sup> 黒澤さんのブログ <http://blog.canpan.info/coco/archive/3499> （2014年9月17日閲覧）

9月14日（日）三連休2日目 444人

- ・ 新建自治会館において弁護士会による専門相談会開催（NPO法人神戸まちづくり研究所のコーディネート）
- ・ 自治会打合わせは中止
- ・ また道横の森の中に積まれた土嚢の運び出し作業を行なう（15日へ継続）
- ・ 5丁目第2児童公園の土砂撤去にたくさんのボランティアが働いた。（15日へ継続）
- ・ 高齢で独居されているKさんが作業のお礼に手品を披露



図14. Kさんがお礼に手品を披露

9月15日（月）三連休3日目 271人

- ・ 5丁目自治会館のサテライトを閉じて資材置き場とし、6丁目資材置き場を可部東サテライトとする。
- ・ 朝、松井市長の視察
- ・ 米軍岩国基地から49名のボランティア来訪。前述Oさん宅の土砂出し、森の中に積まれた土嚢の運び出しを担当。
- ・ チームUは大林サテライトにて出入り禁止となった問題“爺”の仲間たち。よく働くがとても口が悪い。米軍ボランティアの土砂運びを担当してもらい、最後は仲良く記念写真を撮って解散。
- ・ 昼は牛井とソーセージ、ポトフなどの炊出しがあった
- ・ ボランティアセンターの現状説明、不特定多数のボランティアによる泥だし作業から特定職員による生活支援へとニーズが転換し始めて来ている。それにはボランティアの力から地元が本来持っている力を活用して行かねばならない。（社協職員／全体M）
- ・ RQ広島としての支援拠点を終わる事、ご挨拶（RQを代表して高田／全体M）
- ・ RQ広島ボランティアセンター 閉所



図15. 松井一實市長視察



図16. 米兵とその家族が作業



図17. チームUと米兵



図 18. RQ 広島に結集した全国からのボランティアの皆さん (9月15日)

	9月10日	9月11日	9月12日	9月13日	9月14日	9月15日
	水	木	金	土	日	月
ボランティア総数	280	349	331	332	444	271
可部東	160	198	170	222	249	194
取り扱い件数	14	20	7	13	14	10

図 19. ボランティア総数と可部東ボランティア数、可部東での取り扱い件数